

## 広島大学教育学部

### 国語教育研究室編

# 「大村はま先生に学びて」

本書は、国語教育において独創的な実践をくりひろげてこられ、先年、ペスタロッチー賞を受賞された、大村はま先生の遺稿を記念して編まれた文集である。大村はま先生が初めて教鞭をとられた昭和三年以来の教え子の方々にお願ひして、かつての大村先生の国語教室を描いていたかどうかとしたものである。寄せられた文章は、百五十一編にのぼっている。これらを、つぎの目次のように、時代別に編集し、それに、大村先生の二つの文章を添えさせていただいたものである。

まえがき

清水文雄

I 諏訪高等女学校時代（82編）

II 東京都立第八高等女学校時代（44編）

III 東京都新制中学校時代（25編）

「行く行く、行くっ」

歩んできた道

あとがき

大村はま

大村はま

野地潤家

大村はま先生の輝かしい業績についてはすでに周知のことであろう。しかし、ここに寄せられた文章の一つ一つをとおして、大村はま先生のご授業ぶり、指導のご様子を知り、教え子の方々の先生への一貫せる敬愛の情に接して、さらなる感銘を呼びおこされるのは、わたくし一人ではあるまいと思う。教師としての労苦と、それに対する幸福とを、これらの文章から汲みとることは無理なことではあるまい。ここには、四十年にもなるうとする長年月にわたっての、大村先生の絶えざるご精進の姿が映し出されており、先生の二つの文章がその間の事情を明らかにしてくれる。大村先生みずから喜んで求めていかれた教育者の道を、「歩んできた道」と回想され、たんに「年譜」とされない点にも、大村先生の態度が察せられる。百五十一編の文章と大村先生の二つの文章とは、一体となつて、わたくしどもの前に、先生の国語教育の内実を示してくるのである。

大村はま先生のお名前は、戦後の新制中学設定とともに、広く知れわたるようになった。わたくしどももそのころからの大村先生を驚嘆の目で眺めてきた。しかし、戦後あれほど卓越したお仕事をなすとげられた大村先生

は、実は、戦前の二十年に近い教壇生活において、すでに、たぐい稀な国語教育を實踐しておられたことが、寄せられた多くの文章によって、はっきりと示されているのである。戦前のご経験をふまえ、さらに発展させられた大村先生の歩みには、常に指針となる教育者の典型が刻まれている。

教育が教育者と学習者との信頼に満ちた結びつきを必須の条件としている以上、学習者が見た教師像もまた、教育研究になくしてはならないものである。にもかかわらず、現在までのところ、国語教育界では、教師中心の理論書、実践報告のおびただしい刊行をみるのみで、学習者の側から追求した国語教育の把握は極めて稀である。「大村はま先生に学びて」は、それらを補うための一つの試みであるともみられる。

以上のような意味で、本書は、大村はま先生という、日本の代表的な国語教育実践者の、実践史研究の資料としても貴重なものであるといえよう。

（中西一弘）